

## ー水辺とまちの未来創造プロジェクトー

# 水辺とまちの未来創造メッセージ

概要

～ここから水辺の未来が動き出す～

### ○概要

水辺とまちの未来のかたちをデザインし、持続可能な未来の創造に貢献するための「水辺とまちの未来創造プロジェクト」の一環として、「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」(座長:陣内 秀信 法政大学デザイン工学部教授)を設置し、これまで4回開催してきました。ここで生まれたヒントフレーズなどを「水辺とまちの未来創造メッセージ ～ここから水辺の未来が動き出す～」として取りまとめました。今後、より多くの方によって、水辺の賢い利用が進むことを期待しています。

### ○懇談会とは

水辺とまちの未来創造に向けたメッセージを発信するため、各界の有識者等からなる懇談会を設置

懇談会経緯:平成25年12月27日 第1回 コメンテーター:座長 陣内秀信(法政大学デザイン工学部建築学科教授)をはじめ、  
平成26年 1月16日 第2回  
平成26年 2月 7日 第3回 学識者、金融・不動産・飲食関係者、編集者、河  
平成26年 2月27日 第4回 川利用者、地方公共団体等より構成



堀川花盛

(名古屋名所団扇絵集 市博物館所蔵)

### ○水辺とまちの未来創造メッセージ(抜粋)

#### (1) 水辺は猥雑で色気があった。日本の水辺は世界に誇れるものであるはず

かつて水辺は猥雑で色気があったにもかかわらず、治水重視という時代の要請により水辺は様変わりしていった。しかし、現在でもなお水辺には潜在的に魅力がたくさん詰まっている。

#### (2) 河川空間は公共空間なのに自由に使えない？

日本の河川空間は公共空間であるのに自由に使えないという経験を持った人がたくさんいる。また、そもそも近づこうともしない人もいるようだ。自分たちの手で水辺のまちづくりに関わり、まちに対する誇りと自由度の高い空間を取り戻そう。

#### (3) 水辺を使い倒して、楽しみ倒す

水辺にはわくわく感があり、楽しみもビジネスも眠っている。「とんでもないこと」と思って尻込みするのではなく、とにかく使い倒して、楽しみ倒そう。

# 水辺とまちの未来創造メッセージ

～ここから水辺の未来が動き出す～

## (4) 地域固有の歴史・文化を活かしつつ、クリエイティブに再生する

水辺を再生するには、大規模開発よりも既存の施設をリノベーションすることが有利である。海外で多く見られるように、アーティストやクリエイター、先見性のある企業などが活躍すべき場所である。

## (5) 自分たちで水辺を楽しむ礼儀作法をつくる

なんでもありで水辺を無秩序に利用するだけでは、行政との競合は解消しない。最低限のルール、礼儀作法が必要であり、その作法を利用者自ら考えるという自己責任の文化の確立が必要である。

## (6) 水辺の利用者、地域住民、行政をつなぐコーディネーターが必要

利用者の思いと行政の管理との間に競合があり、その調整に膨大なエネルギーが消費され、あきらめてしまいがち。また、地元の一部の反対により実現できない場合もある。かつてのテキ屋のように利用者、地域住民、行政をつなぐコーディネーターが必要である。



日本橋川(東京都)

## (7) 行政は公平、公正、中立の姿勢は重要であるが、新しい提案を受け入れたりする度量をもつ

行政サイドの公平、公正、中立の姿勢は重要であるが、時代の要請にさらに柔軟に対応していくためには、利用者の意見をよく聞き、共に考える姿勢が求められている。また、縦割り行政の弊害により水辺とまちが分断されていたり、中央と地方(現場)の感覚にズレもあつたりする。

## (8) 持続可能性を担保する資金調達や規制緩和のしくみ

持続可能性を担保するためには、資金調達や規制緩和についてさらに工夫していく必要がある。占用料や使用料の有効活用方策、クラウドファンディング、ファンドレイジングなどの新たな仕組みを検討してみよう。

## (9) 未来の水辺に向かってつなげる、育てる

日々目にしているものと記憶をつなげてアプローチすることは共感を得るための重要な視点である。同じ思いを持つものがつながり協働することが大切であり、利用者自らが水辺をつくり、使い、育てることが重要である。

## (10) 水辺の使い方に対する共感と実践を広げていくためのプロモーションの方法

都市の資産としての水辺の使い方を市民・行政ともに広めていくためには、よりよい使い方、理想的なあり方を広く周知する必要がある。それがひいては、「日本ならでは」の水辺の利用を促し、都市ごとのブランド認知にも寄与することとなる。